作業台に潜む動作・運搬のムダをなくせ！
工具・部材の配置、台の大きさ、高さ・・・

“生産性・操作性の高い”

手づくり改善

作業台のつくり方

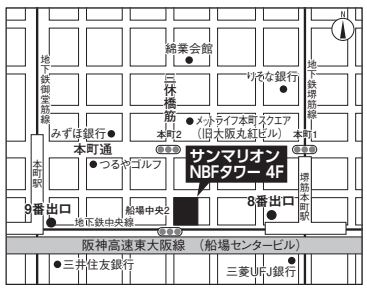
ムダな動きが無い！　疲れにくい！　コンパクトに！　フレキシブルに！
キーワードは“オペレータの立場に立って考える”と“手元化”

開催日　平成 30 年 10 月 25 日（木）午前 10 時～午後 5 時

講　師　**松田　龍太郎** 氏　株式会社ＳＭＣ 代表取締役

1974 年大手電機メーカーに入社。リミットスイッチなどの設計および開発に従事。その後、製造、生産技術分野で活躍。その手腕を発揮し TPS を中心とした改善活動を社内で広く推進した。2000 年退職後、㈲エス・ピイ・エス経営研究所へ入社。ドイツへ赴任し現場改善コンサルタントとして 70 社以上、210 工場以上の実績を積む。2006 年独立し、㈱SMC を設立。欧州、そして国内でコンサルティング、セミナー講師として活躍。実務経験豊富で、元気で明るくユーモアを交えたユニークな指導に定評がある。

会　場　**大阪府工業協会　研修室**（大阪市中央区南本町 2-6-12 サンマリオン NBF タワー4F）
地下鉄 御堂筋線・四つ橋線・中央線「本町」駅⑨番出口より徒歩約 4 分
堺筋線・中央線「堺筋本町」駅⑧番出口より徒歩約 3 分



〈会場のご案内〉

受講費　1名につき　会員企業の方　**25,920** 円（消費税 1,920 円を含む）
非会員企業の方　**31,320** 円（消費税 2,320 円を含む）
※振込先　〔三井住友〕備後町支店(当)No.201068　〔りそな〕大阪営業部(当)No.1027054
〔三菱 UFJ〕信濃橋支店(当)No.321966

申し込み　下欄の受講申込書をＦＡＸで当協会宛てにお送りください。
(ホームページからもお申込みいただけます)
折り返し、受講票・請求書・振込用紙をお送りいたします。　➡ **FAX 06-6245-9926**

※開催前々日以降に取り消しの場合は受講費を全額ご負担いただきますので、代理の方の出席をお願いいたします。

キリトリ線

受講申込書　“生産性・操作性の高い”作業台のつくり方

2018.10.25

No.6213-0510KA

会 社 名	／従業員数　　名			受講者	所属部署名（役職名）	氏　　名
所 在 地	〒　　－					
電話番号		ＦＡＸ		主要製品		

◎受講費送金予定
振 込（　　月　　日　　銀行）
受講者（　　）名分　¥＿＿＿＿＿＿（税込み）

◎申込担当者（受講票・請求書等のお送り先）
所属（役職名）　　氏名

お申し込みは ▶ FAX 06-6245-9926 公益社団法人 大阪府工業協会

http://www.opmia.or.jp/seminar
ホームページからも受講申込できます

※申込書にご記入いただいた内容は、事務処理（受講票・請求書の発行等）、担当講師への受講者名簿提示の他、研修案内の送付に利用させていただく場合がございます。なお、内容の訂正・利用停止をご希望の場合、当協会までご連絡ください。

セミナープログラム　平成 30 年 10 月 25 日(木)　10:00～17:00

1　まず動作と運搬のムダについて考える

1）作業のうち、ムダは何％？　付加価値は何％？
2）「ムダをムダと思わない」が当たり前になっている
3）キーワードは“手元化”
4）オペレータの立場に立って、作業しやすい環境を考える

2　作業台に隠れるムダを探す

1）座り作業から立ち作業へ
2）部品や治工具・設備は作業順に並べ、手元化を徹底する
3）作業台はコンパクトにして、歩行のムダをなくす
4）異常が発見しやすい・処置や対策のしやすいしくみ
5）繰り返し性の高い標準作業にして、最小の時間で作業できるようにする
6）運搬台車も作業台の一部として考える
7）現場での事例紹介『組立ラインの改善案』

3　“生産性・操作性の高い”作業台を考える

1）人間工学にもとづいて、オペレータが作業しやすい（疲れにくい）作業台を設計する
2）多品種少量生産に対応できるフレキシブル性と汎用性をもたせた作業台にするには
3）品質向上のため部品供給とトラブル対応の人員も設置する
4）設備間のワークの高低差・振り向き・しゃがみのない順序の良い流れをつくる
5）部品や治工具、設備の段取り替えを短くする
6）供給排出の高さの統一やセット供給を考慮する（水すましの作業も楽にできるように）

4　“生産性の高い”作業台のつくり方

1）作業台はユニット化し、連結や分離がワンタッチででき、キャスター付きにする
2）作業台に取り付ける動力源やねじ・ナット類は統一する
3）設備を載せる架台は、高さを調整できるようにする
4）作業台・運搬台車、棚や設備などは、まず段ボールで試作してみる
　事例紹介：『段ボールを使ったシミュレーション』
5）パイプ材、アルミの棒材、穴付きのＬアングルなどで作業台をつくる
6）ラインはU字、Ｃ字、Ｌ字などの形状があるが、同じ作業台ユニットを使う

5　作業台の材料・部品と“からくり”の要素の活用

1）作業台に設置する付帯設備もユニット化する
2）コンパクトな作業台にするため、オーダー別のピッキングやセット化を考える
3）手元化するために作業の邪魔にならない工夫（からくりの要素を活用）
4）部品と治工具をセット化した作業台ユニットの紹介

6　作業台の操作性について

1）左回りと右回りの決め方
2）精密作業の場合のワークの高さの決め方と方法
3）一人ひとりに対応して、作業台の高さが調整できる
4）レイアウト変更があっても、１～２人で簡単にできる
5）演習：時間観察して、作業性を検証する

公益社団法人　大阪府工業協会
TEL：06（6251）1138　FAX：06（6245）9926